なぜいま、林業に力を入れるのか

時代とともに山との繋がりが薄れ、手入れの届かない森林が増加しています。町の約90％を占める森林の価値を見つめ直し未来へつなぐ、みなかみ町が推進する「自伐型林業」を特集します。

荒れた里山が身近なリスクに

手入れの届かなくなった里山がいま、私たちの安全や安心を揺るがしています。山の問題は、決して誰かの問題ではなく、ここで暮らす私たち全員の課題なのです。

森林病害虫被害

松くい虫やナラ枯れ被害により根腐れし、**倒木のリスク**が高まります。森林資源の損失だけでなく、二次災害の危険もあります。

土砂災害の発生

日光が届かない森林では下草が育たず、根がしっかり張りません。こうした森は保水力が低下し、**土砂災害リスク**が高まります。

野生動物との境界線の喪失

藪が生い茂った里山は、動物が身を隠しやすく、奥山と人里の境界線を曖昧にしています。**野生動物たちが人里近くへ出没しやすい環境**を生み出しています。

景観の悪化

手入れがされないと木々が混み合い薄暗い印象に。地域の**景観悪化、不法投棄**などの防犯面にも影響を与えています。

これらの課題を解決し持続可能な森林を守る
みなかみ町の林業 ３つの柱

その1 「自伐型林業」

山林を住民の手で整備する

自伐型林業とは

町が推進する「自伐型林業」は、大型重機で一気に伐採するのではなく、小型重機を使って必要な木だけを選んで伐る**「小さな林業」**です。

9年前にスタートした自伐型林業研修

林業に関心のある方や山林所有者を対象に、座学と実技を交えた研修を開講。これまでに270名以上が受講し、受講後もスキルアップ研修などを通じて技術の向上を図っています。

自伐型林業研修を受講中
町に移住して農業を営む
塚本さん

農地の整備に木の伐採が必要となり、安全に作業するために受講を決めました。森林の適切な手入れが土砂災害の防止にもつながることを初めて知りました。今後は、薪づくりをはじめ、倒木対応や果樹の伐採など、地域の役に立つ活動にも繋げていきたいです。

その2

林業の取組を継続していくための「6次産業化」

森を守るための入口（伐採や森の手入れ）を、経済的に長く回し続けるために、**伐り出した木材に価値を与え出口を創出する**「林業の6次産業化」に取り組んでいます。

6次産業化とは

自伐型林業で伐り出した木材を、町内外で製品化し、全国での販売や町内での木育へと繋げる取り組みです。伐採から加工・流通・教育までを一体で推進し、**「林業・産業・地域」が巡る持続可能な仕組み**をつくっています。

1次産業「生産」
木を育て、伐採する

×

2次産業「加工」
製材する、商品を作る

×

3次産業「流通」
地域内外へ販売する

＝

6次産業化 持続可能な林業を目指す

その3

ユネスコエコパークの理念のもと広がる「企業との挑戦」

オークヴィレッジ株式会社との包括連携協定

自伐型林業で伐り出された広葉樹を活用し、家具やクラフト製品などの製品化・販売を行っています。

三菱地所株式会社・日本自然保護協会との連携協定

豊かな動植物を育む森づくりを目指し、手入れ不足の人工林を自然林へ戻す活動や、町内で木材を加工・製品化する取り組みを進めています。

株式会社カインズとのパートナーシップ協定

自伐型林業の過程で出た間伐材を利用した薪を、みなかみ町の林業応援のメッセージと共に販売しています。

スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社との連携協定

間伐材を店舗の建材・内装に活用する試みのほか、従業員の環境教育の場としてみなかみ町の森を活用しています。

みなかみ町役場 （６２）２１１１　水上支所 （７２）２１１１　新治支所 （６４）０１１１